

もてぎ・菅生シリーズ Rd.1

MOTEGI CHAMPION CUP RACE

2026年3月15日 天候:晴れ 参加FJ1500/5台、S-FJ/9台



テキスト:はた☆なおゆき

1980年にFJ1600としてスタートした日本のエントリーフォーミュラ『FJ』は、2007年からのスーパーFJ以来となる新章に突入した。スーパーFJのコンセプトを引き継ぎつつ、より安全性を高め、より実戦的となったFJ1500が導入されたのだ。新たなカテゴリーに先鞭をつけたのは、自動車工房MYST(ミスト)だった。

現代のフォーミュラカーに欠かせなくなったパドルシフト、そしてドライバーの頭部保護デバイスである第3ロールバーを装備。車体前後のクラッシュブルストラクチャーは強化され、ホイール脱落を防ぐテザーワイヤーも装着された。また、スーパーFJに搭載されていたエンジンも、生産終了から10年が経過し、パーツ確保が困難になりつつあることから、新エンジンに改められている。

すでに鈴鹿・岡山シリーズでレースが行われているが、関東ではモビリティリゾートもてぎでの、もてぎ・菅生シリーズが初となる。今回は5台のミストKK-Fが集い、9台のスーパーFJと混走。なお移行期間として、2028年まで3年間は両クラスにJAF地方選手権がかけられる。

公式予選

もてぎチャンピオンカップレース第1戦は2デー開催のため、FJに関しては予選、決勝ともに日曜日に行われる。ただし、土曜日の午前に20分のスポーツ走行が1セッション設けられ、トップタイムを記録したのは、#55 田崎脩馬選手(MYST 制動屋)で2分1秒828をマーク。昨年のこの時期、スーパーFJで記されていたのは2分4秒台だけに、今から14年前に山下健太選手が記録した2分1秒682にも

迫る勢いである。ただ、当時はまだエンジンが現在のノーマルではなくチューニングが施されていた。スーパーFJ トップの#34 藤井翔大選手(Drago CORSE)も 2 分 2 秒 746 を出しており、このあたり路面の完全改修効果が大きいのだろう。ただ、日曜日になると、ほぼ同じ時間帯に行われたにもかかわらず、季節外れの陽気で気温がさらに上昇。結論から言えば、2 分2秒台が記録されるに留まった。それでも暖かい分だけタイヤのウォームアップも早く、計測2周目には早くもトップ2分2秒台に突入した。#55 田崎選手は2分2秒 686 を出し、その後も2分2秒 500、2分2秒 199 とトップタイムを連発する。計測3周目には#14 鈴木大翔選手(ZAP SPEED KK-F)も2分2秒 861 を出し、続けて2分2秒 762 で 2 番手につける。

この後、#55 田崎選手、#14 鈴木選手ともどもタイムを伸ばせなかったのに対し、計測4周目に2分2秒 781 で 3 番手に上がってきたのが#22 石井大雅選手(ファーストガレージ制動屋)で、次の周には2分2秒 608 を記録して 2 番手に浮上。しかし、その直後に#56 磐上隼斗選手(アルビレックス富士吟景 GIA・ED)が2分2秒 412 を出して 2 番手を奪い去る。

しかし、最後の計測周で#55 田崎選手は、自己ベストとまったく同タイムの2分2秒 199 を記録し、さらに#22 石井選手も2分2秒 328 をマーク。その結果、最後までトップを守り抜いた#55 田崎選手がポールポジションを獲得し、2 番手は#22 石井選手に。そして#56 磐上選手が 3 番手、#14 鈴木選手が 4 番手で、FJ1500 勢が上位をしっかりと占めることとなった。

続く総合 5 番手からはスーパーFJ 勢が。計測4周目に2分2秒 781 を記録して、しばらくトップにつけていたのは#34 藤井選手ながら、最後の計測周で#43 大川烈弥選手(B-Auto & TAKE FIRST)が2分2秒 499 を叩き出して逆転に成功。#34 藤井選手も2分2秒 640 までタイムを縮めていたが、あと一歩及ばなかった。

スーパーFJ の 3 番手は#2 松下彰臣選手(Abel HOSHO & PARM ZAP 10V ED)で2分2秒 640 をマーク。これに続く 4 番手、2分3秒 121 を記録したのは、ジェントルマンクラスでトップの#38 畠山退三選手(Hobbybase & MYST)だった。

ポールポジション：#55 田崎脩馬選手(MYST 制動屋)

「最後、アタックしている時に詰まってしまって、『もうちょっと出せたかな』っていうのがあったんですが、とりあえずポール獲れて良かったです。今までカートやっていて、最後はシフタークラスです。途中で出るのをやめたので、ランキングはそれほどでもないですが。去年の鈴鹿、最終戦がデビュー戦です。決勝は慌てず、しっかり引き離して勝ちたいです」



予選 2 番手：#22 石井大雅選手(ファーストガレージ制動屋)

「(併催の)F110 カップから乗り換えた直後で、乗り換えが初めてだったので、それでちょっと苦戦したという感じなんですけど、それは言い訳に過ぎなくて。車としては全然行ける、優勝を狙えるというところだったんですが、2番目からのスタートになったので、それはレースの組み立てが全然違うので、ちょっと危惧するところですね。FJ1500 には今回だけのスポットの予定で、メインはF110 カップになります。メカもやりつつ……なんですけど、ファーストガレージさんのおかげで、こういうことができていますので、感謝するところです。去年の『スーパーFJ 日本一決定戦』で悔しい思いをしているので、リベンジを果たしたいと思います」



予選 3 番手: #56 磐上隼斗選手(アルビレックス富士吟景 GIA・ED)

「とりあえず FJ1500 は今回だけのスポット参戦です。たぶん、今後は KK-SII に乗って、スーパーFJ のもてぎ・菅生に。スケジュール的にもてぎだけになるかもしれませんが。今の予選は最後にミスしてしまって、まとめきれなくて。途中ハーフスピンしちゃって、リズムが取りきれなかったので、『最後に仕掛けるぞ』って時に欲張り過ぎちゃいました。決勝はもちろん行けます、取り返します。FJ は 4 年目です、なんだかんだで頑張ります」



スーパーFJ 予選トップ: #43 大川烈弥選手(B-Auto & TAKE FIRST)

「今年が 3 年目です。正直、自分としてはミスばかりで、手応え的にはうまくいかなかった予選です。だから、正直コントロールライン通過してタイムが出た時には、『ポール(に届かず)惜しかったな』ってぐらいの手応えだったんですね。帰ってきて一応ポールで、安心は安心なんですけど、全然まだ伸びしろありというか、もっと行けるなという感じです。逆に言うと、FJ1500 のポールタイム付近まで行けるポテンシャルもあると思うんですよ。だから、これから決勝に向けて、ということですね。どこでミスったのか、これから煮詰めていくところです」



スーパーFJ 予選 2 番手: #34 藤井翔大選手(Drago CORSE)

「ちょっと前半、最初の1周目アウトラップにタイヤを意識しすぎて温める最中にスピンしてしまったミスで。中盤のタイヤが大事な時に遅い車両と引っかかってしまい、それでも後半、2 番手まで上げてこられたのは良かったんですが、まあ、自分がちゃんとやれば、もっと前に来られたと思うので、決勝で上げていきたいと思います。FJ1500 との差が僕も、もっとあるもんだと思っていたんですけど、意外とないので、レースの展開次第では FJ1500 をうまく使って、スリップストリームを使わせてもらえるような展開を考えています」



スーパーFJ 予選 3 番手: #2 松下彰臣選手(Abel HOSHO & PARM ZAP 10V ED)

「もう一步のところ、っていうのが正直なところです。一応、自己ベストは出ましたけど、もうちょっと反省点がクリアできれば、タイムは出たのかなっていうのが正直なところです。FJ は 2 年目で、これが初めてのモータースポーツで。24 年のオーディションから始めて、やっています。今、32 歳で、30 歳でオーディション受けました」



決勝レース

10 周もしくは 30 分で競われる、決勝レースのスタート進行開始は 14 時 45 分。1台は総合 9 番手に留まった FJ1500 ながら、フロントロー、セカンドローまで独占したのは、スーパーFJ より上回るスピー

ドを売りにしていただけに、まずは狙いどおりの状況と言えるだろう。ただ、両クラスのタイム差が意外にも少なかったのは、まだまだ FJ1500 が発展途上で完全にはセットが決まっていないからなのだろう。また、ポールシッターの #55 田崎選手は、鈴鹿で 1 戦だけとはいえ、もうレースを経験している強みもある。果たして、どんなレースを見せてくれるか注目されたのだが……。なんと、その #55 田崎選手はスタートでエンジnstール。大きく出遅れたばかりか、スーパーFJ の 1 台と接触し、その場でマシンを止めてしまう。

代わってトップに立ったのは #22 石井選手で、2 番手は #56 磐上選手。#14 鈴木選手は出遅れ、スーパーFJ の #43 大川選手と #34 藤井選手の先行をも許していた。1 周目を終えると、早くも #22 石井選手と #56 磐上選手は一騎討ちを繰り広げるようになり、後続を 1 秒引き離す。その後も隙あらば、としきりに牽制をかける #56 磐上選手ながら、そのつど #22 石井選手は冷静に対処し、しっかりガードを固め続けていた。

一方、総合でも 6 番手につけていたのが、スーパーFJ の #33 小林留魁選手(アルビ新潟第一ホテル GIA ED)だ。予選は 11 番手だったから、なんと 5 つもポジションを上げていた。そして、その前を走っていた #14 鈴木選手は、#34 藤井選手を 2 周目に、3 周目に #43 大川選手を抜いて 3 番手に上がるも、すでにその時、前との差は 1 秒 8。もはや追い付くのは至難の業かと思われたが、トップ争いが熾烈になって、徐々に差は詰まっていく。

6 周目、#56 磐上選手が勝負に打って出た。ホームストレートから 1 コーナーにかけて、#22 石井選手の脇に並ぶも、前に出るまでには至らず。3 コーナーから 4 コーナー、そして 5 コーナーでも。しかし、諦めなかった #56 磐上選手は、ついに S 字で #22 石井選手をパス！ 待望のトップに躍り出た。7 周目には力を振り絞ってファステストラップ、2 分 2 秒 635 を出して、これが逃げ切りの決め手に。



またスーパーFJ では、バチバチと火花が飛ぶようなトップ争いが続き、#34 藤井選手と #43 大川選手は何度も順位を入れ替えていた。が、6 周目に入ったところで、#43 大川選手に 5 秒のタイムペナルティが。絶妙に見えたスタートながら、動き出しがわずかに早かったのだ。プラス 5 秒であれば、#33 小林選手を振り切れるかもしれない、そんな思いをチームメイトだからこそ #34 藤井選手も察したよう。そこからは無用なバトルは避けて、揃って逃げ

ていく。

最後はコンマ 4 秒差ながら、#22 石井選手を抑えてスーパーFJ ではなし得なかった優勝を、#56 磐上選手が達成。マシンを降りたばかりの #22 石井選手は、肩を落としていた。3 位はデビューから 2 戦目の #14 鈴木選手が獲得。

そして、辛くも逃げ切り果たして #34 藤井選手もスーパーFJ で初優勝。やはりタイム加算は 5 秒だった #43 大川選手はポジションをキープ、実質 #33 小林選手との差はコンマ 3 秒でしかなく、まさに薄氷を踏む結果に。そして、その #33 小林選手に見た目のとおり、やはりコンマ 2 秒にまで迫っていたのが、#38 畠山選手。2 台での争いではあったが、ジェントルマンクラスでは圧勝となった。



今回のレースにおいて、現時点で FJ1500 の方が旋回速度では勝るが、ストレートでは僅かにスーパー FJ に分があるようで、どうやら第3ロールバーが空気抵抗となっているようだ。しかし、FJ1500 もセットが進んで、よりコーナーでの脱出速度が高まれば、同等もしくは上回るようになるはず。そうなれば、当初の狙いどおり1秒から2秒ほどの差が生じるに違いない。



優勝：#56 磐上隼斗選手(アルビレックス富士吟景 GIA・ED)

「初優勝です、やっと。4年もかかっちゃったですね。スタートは無難に決まって、ただ、最初は良かったんですけど、車のバランス崩れちゃってアンダーが出てきちゃって、ちょっとそれに手こずって抑えすぎたりした部分はあったんですが、でも、ひとまず落ち着いて走れたので良かったです。もう幸せです、本当に幸せです。これで終わりにはできなくなったので、社長と監督に相談してみようと思っています！」

2位：#22 石井大雅選手(ファーストガレージ制動屋)

「まあ、ちょっと自分のペースが足りなかったです。何回か自分、コーナーで離して、でも、スリップで近づいてというのがあったので、そこでちゃんと直線で立ち上がり決めて、というのがあれば、もうちょっと結果も違ったでしょうが、なんともならなかったです」

3位：#14 鈴木大翔選手(ZAP SPEED KK-F)

「最低限、ギリギリの結果だと思います。なんとか表彰台に上がっただけのレースで。予選からミスだらけで、もう、どうしようもなかった。これから、しっかり練習して自分のレベルを上げていきたいです」



4位&スーパーFJ優勝: #34 藤井翔大選手(Drago CORSE)

「嬉しいです、最高に。ようやく勝てました。チームメイトとお互い信頼しあって、最高のバトルができたと思いますし、これからもこの調子で頑張っていきたいと思います。シリーズは鈴鹿・岡山をメインに、日本一がもてぎであるので、ここもまた出たいと思っています」

5位&スーパーFJ2位: #43 大川烈弥選手(B-Auto & TAKE FIRST)

「ペナルティのこともあったので、よけい頑張ったんです。チームメイトが僕のこと、理解してくれているので、安心してバトルし続けられました。今年は環境にも恵まれ、いい体制でレースさせてもらえているので、本当にチームには感謝しています」

6位&スーパーFJ3位: #33 小林留魁選手(アルビ新潟第一ホテル GIA ED)

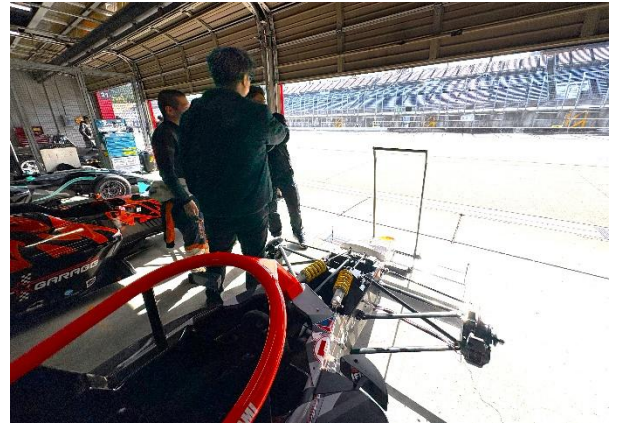
『スタートだけです、あとはもう(苦笑)。スタートには集中して、いい感じで切れて前に出ることができたんですが、その後がダメダメで。前のふたりには離されてしまったので、順位はともかく、内容には満足していないですね』

7位&ジェントルマンクラス 1位 #38 畠山退三選手(Hobbybase & MYST)

「今年はスーパーFJでも総合の表彰台も狙える？ いや、去年よりレベルダウンしちゃったからね、みんな、いなくなっちゃって。でも、その可能性はなくなるはないので、次は狙いますよ」



写真は、(左)2位野口選手、(右)1位畠山選手





2026 MOTEGI Champion Cup Race Round.1



もてぎ・菅生 FJ1500選手権/もてぎ・菅生 スーパーFJ選手権 第1戦

FJ1500/スーパーFJ 公式予選

2026 / 3 / 15 :



正式結果表

Weather :Fine

Track :Dry

Road Course(4,801m)

Pos	No	Class	CP	G	GP	Driver	CarName	Type	Tire	Best Time	Gap	B/L
1	55	FJ1500	1			田崎 脩馬	MYST 制動屋	KK-F	DL	2'02.199		5 / 7
2	22	FJ1500	2			石井 大雅	ファーストガレージ制動屋	KK-F	DL	2'02.328	0.129	0.129 8 / 8
3	56	FJ1500	3			磐上 隼斗	アルビレックス・富士吟景GIA・ED	KK-F	DL	2'02.412	0.213	0.084 6 / 7
4	14	FJ1500	4			鈴木 大翔	ZAP SPEED KK-F	KK-F	DL	2'02.455	0.256	0.043 8 / 8
5	43	S-FJ	1			大川 烈弥	B-Auto&TAKEFIRST	KKS2	DL	2'02.499	0.300	0.044 8 / 8
6	34	S-FJ	2			藤井 翔大	Drago CORSE	KKS2	DL	2'02.640	0.441	0.141 8 / 8
7	2	S-FJ	3			松下 彰臣	Abel HOSHO&PARM ZAP 10V ED	RD10V	DL	2'02.779	0.580	0.139 7 / 8
8	38	S-FJ	4	G	1	畠山 退三	Hobbybase&MYST	KKS2	DL	2'03.121	0.922	0.342 7 / 8
9	48	FJ1500	5			村上 太晟	ファーストガレージKK-F	KK-F	DL	2'03.271	1.072	0.150 5 / 8
10	57	S-FJ	5			宮崎 琉	T's TECHNO RF kKs II	KKS2	DL	2'03.355	1.156	0.084 8 / 8
11	33	S-FJ	6			小林 留魁	アルビ新潟第一ホテルGIAED	KKS2	DL	2'03.750	1.551	0.395 6 / 7
12	81	S-FJ	7			木幡 直生	群馬トヨペットTeam RiNoA	KKS2	DL	2'03.795	1.596	0.045 6 / 7
13	8	S-FJ	8			佐久間 俊	CMSC ZAP 10VED	RD10V	DL	2'05.104	2.905	1.309 6 / 7
14	7	S-FJ	9	G	2	野口 伸周	野口商會ZAP10VED	RD10V	DL	2'07.861	5.662	2.757 5 / 7

***** 以上予選通過 (FJ1500 : 2'39.006 - 130% /S-FJ : 2'39.431 - 130%) *****

Start Time :09:15'00 Finish Time :09:30'00

ラップタイムを採択しない(2026もてぎチャンピオンカップレース 特別規則 第26条 ~6)「走路外走行」
CAR No.81:2'03.715

もてぎ・菅生 FJ1500選手権/もてぎ・菅生 スーパーFJ選手権 第1戦

FJ1500/スーパーFJ 決勝

2026 / 3 / 15 :



正式結果表

Weather :Fine

Road Course(4,801m)

Track :Dry

Pos	No	Class	CP	G	GP	Driver	CarName	Type	Tire	Lap	Total Time	Gap	Best Time	B/L	
1	56	FJ1500	1			磐上 隼斗	アルビレックス・富士吟景GIA・ED	KK-F	DL	10	20'41.314		2'02.606	9 / 10	
2	22	FJ1500	2			石井 大雅	ファーストガレージ制動屋	KK-F	DL	10	20'41.730	0.416	0.416	2'02.505	10 / 10
3	14	FJ1500	3			鈴木 大翔	ZAP SPEED KK-F	KK-F	DL	10	20'44.135	2.821	2.405	2'03.022	8 / 10
4	34	S-FJ	1			藤井 翔大	Drago CORSE	KKS2	DL	10	20'44.729	3.415	0.594	2'03.011	5 / 10
*	5	S-FJ	2			大川 烈弥	B-Auto&TAKEFIRST	KKS2	DL	10	20'49.832	8.518	5.103	2'03.025	5 / 10
6	33	S-FJ	3			小林 留魁	アルビ新潟第一ホテルGIAED	KKS2	DL	10	20'50.119	8.805	0.287	2'03.816	8 / 10
7	38	S-FJ	4	G	1	畠山 退三	Hobbybase&MYST	KKS2	DL	10	20'50.347	9.033	0.228	2'02.793	9 / 10
8	2	S-FJ	5			松下 彰臣	Abel HOSHO&PARM ZAP 10V ED	RD10V	DL	10	20'57.292	15.978	6.945	2'04.299	9 / 10
9	48	FJ1500	4			村上 太晟	ファーストガレージKK-F	KK-F	DL	10	20'57.670	16.356	0.378	2'03.912	9 / 10
10	57	S-FJ	6			宮崎 琉	T's TECHNO RF kKs II	KKS2	DL	10	20'59.312	17.998	1.642	2'04.158	6 / 10
11	81	S-FJ	7			木幡 直生	群馬トヨペットTeam RiNoA	KKS2	DL	10	21'04.576	23.262	5.264	2'04.719	4 / 10
12	7	S-FJ	8	G	2	野口 伸周	野口商會ZAP10VED	RD10V	DL	10	21'42.852	1'01.538	38.276	2'08.120	6 / 10

**** 以上完走(規定周回数 FJ1500 : 9Laps /S-FJ : 9Laps) ****

55	FJ1500	田崎 脩馬	MYST 制動屋	KK-F	DL	0
8	S-FJ	佐久間 俊	CMSC ZAP 10VED	RD10V	DL	0

Fastest Lap

FJ1500	2'02.505 (10 / 10)	141.085 km/h	22	石井 大雅 / ファーストガレージ制動屋
S-FJ	2'02.793 (9 / 10)	140.754 km/h	38	畠山 退三 / Hobbybase&MYST

Start Time :14:58'29 Finish Time :15:19'10

PENALTY

* CAR No.43 : タイムペナルティ5秒(20'44.832 + 5秒) (2026もてぎチャンピオンカップレース SpR.36条~1)反則スタート) [裁定: 15:05]

審査委員長: 星 忠	競技長: 神戸 透	計時委員長: 山賀 賢史
------------	-----------	--------------

